

## 平成30年度ふれあいトーク議事録(久目地区)

日時 平成30年8月21日(火) 19:00～20:10

場所 久目地区交流館

出席者 久目地区住民 31名

市長、企画政策部長、総務部長、市民部長、産業振興部長、建設部長、教育次長、消防長、防災危機管理監、事務局5名

質問の内容	回答
<p>1 男性 地区の事業概要について県事業の主要地方道高岡氷見線道路改良工事(久目～日詰)の進行状況を教えて欲しい。 用地買収までは話は進んでいないのか？</p>	<p>建設部長 富山県氷見土木事務所の事業であり、詳細については、土木事務所から後日連絡させていただく。</p>
<p>2 男性 氷見市民病院の(午後、外来の)診察が、午後2時から開始となっているのに、(時間になっても診察が)開始されない。苦情になっているので、市からも連絡してほしい。</p>	<p>市民部長 市から(氷見市民病院に)外来の件は伝えておく。</p>
<p>3 男性 CCRC(継続的なケアを受けられる高齢者の地域共同体)について、少子高齢化・過疎化が進んでいるため、2015年に(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が)地方自治体への調査を行ったところ、推進に前向きな自治体が11.3%と少ない。 (CCRCは)馴染みがないとは思いますが、(氷見市は)学校の統廃合、空家の増加など過疎化が進んでおり対策が必要だと思う。市の意見を聞かせてもらいたい。</p>	<p>企画政策部長 CCRCは、都会の元気なお年寄りに地方に来てもらい、地方を活性化するメリットがある。 ただし高齢化に伴い医療費・介護費増加のリスクも懸念される。西日本では、CCRCを大規模に行い、いくつかの成功事例もあるが、県内での成功事例はない。(氷見市においては)後年の負担にならないように注意しながら検討していく必要がある。 しかし高齢者が多い中ではCCRCの考え方を大事にしていかなければならないと考えている。</p>
<p>4 防災について、各地区に設置してある防災行政無線による放送が、氷見市の(災害情報)の伝え方だと思うが、聞こえにくいことが多い。 石川県のある地区では各世帯に(防災無線が)あったりする。高齢化世帯が多い地域であり、耳が遠くなり聞き逃す場合もあると思う。災害情報の伝え方を、もう少し工夫することはできないか？</p>	<p>防災・危機管理監 防災行政無線については、各地区から聞こえにくい、音量が大きすぎる等、様々なご意見をいただいている。調整は行っているが、氷見の地形の特性上、全域に届けるのは難しい。 聞こえにくい場合には、希望世帯に防災ラジオを配布している。それ以外にもテレホンサービス(電話番号0180-99-7777)で、ご確認いただく方法があり、(スピーカーから)流された防災情報を聞くことができる。 西日本の豪雨災害の際、普段聞こえていた(スピーカーからの)防災無線が、まったく聞こえなかったという事例も聞いている。自ら災害情報を取りにくい習慣をつけていただきたい。</p>
<p>5 男性 地域力のアップが絶対に必要になっている。中央の役所から知恵を出したり伝達したりするだけでは、本当の地域力にはならない。地域の中でリーダー養成することを念頭において指導していただきたい。 高齢化が進む中で独居老人が増えている。また独居若者も増えている。そのような問題に対処するためにも、地域力のアップが必要だと思う。</p>	<p>地域振興課長 貴重な意見ありがとうございました。</p>